

—ヤマト王権と古墳の鏡—

大古墳展

3世紀から7世紀まで、大小さまざまな古墳が築かれた時代、ヤマト王権は鏡、石製品、甲冑、馬具などを権威のシンボルとしました。古墳に納められたそれらの品々は、当時の王権のあり方を知るための重要な手掛かりとなります。

本展では、初期ヤマト王権の実態を解明する手掛かりの一つとして注目される奈良県黒塚古墳から出土した33面の三角縁神獣鏡、ならびに大量の三角縁神獣鏡が出土した京都府椿井大塚山古墳の出土鏡合わせて60面あまりが一堂に会しました。これらの鏡はいわゆる「卑弥呼の鏡」にあたるかどうかをめぐって、議論が繰り広げられている謎の鏡です。また近年の出土で話題となった奈良県ホケノ山古墳出土鏡や島の山古墳出土の大量の石製品など、近畿の代表的な前・中・後期の古墳から出土した一級品の展示を行いました。会期中の河上邦彦氏による講演会『ホケノ山古墳で邪馬台国大和説は証明されるか』には定員の2倍近くの参加者が集まり、邪馬台国論争への関心の高さがあらためて証明されました。また神戸会場では特に黒塚古墳や椿井大塚山古墳出土の三角縁神獣鏡と関連の深い西求女塚古墳出土鏡などヤマト王権と地理的に近い神戸の古墳資料も比較展示しました。日本における古墳調査と研究に大きな役割を果たしてきた京都大学と橿原考古学研究所の代表的な資料が初めて同時陳列される展覧会であり、古代国家成立の過程を考古学の立場からアプローチする有意義な展覧会となりました。



※この図録は現在当館では扱っておりません。

会期／平成13年2月7日（水）～3月25日（日）

会場／特別展示室1、南蛮美術館室、特別展示室2

主催／神戸市立博物館、京都大学総合博物館

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館、神戸新聞社

後援／サンテレビジョン、AM神戸

協賛／東京海上

開催日数／41日

入館者数／16, 572人（404人／日）

出品件数／約900点